

白根新聞

人口のうごき		(12月1日現在)		(11月中)	
人口	33,898	出生	39	死亡	24
男	16,284	転入	40	転出	81
女	17,614				
世帯	6,436				

一月一日から開園

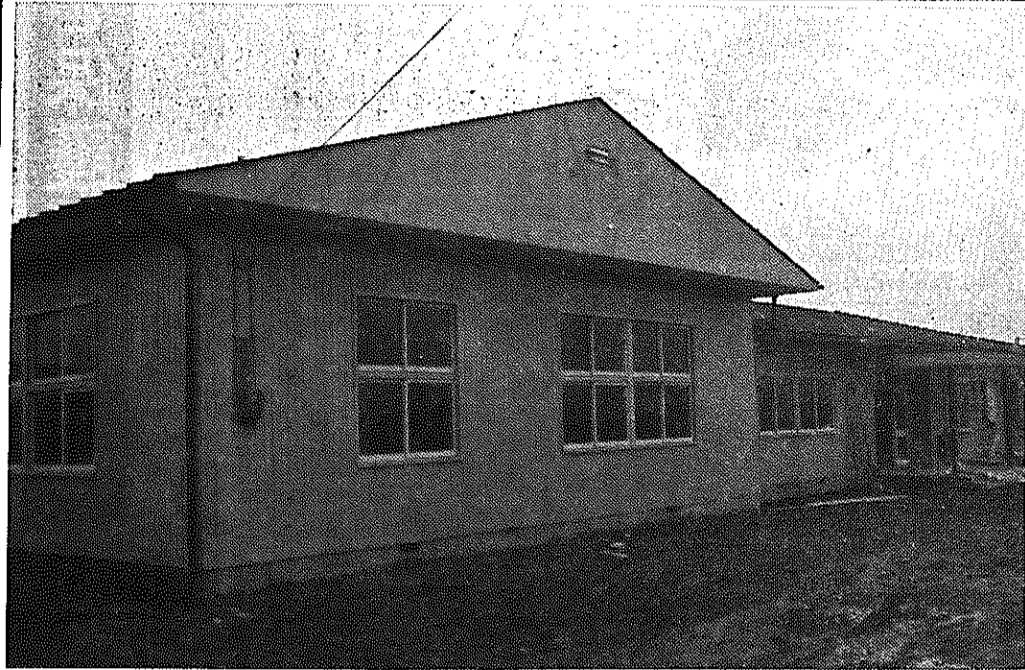
白根中央
保育園

緩和される入所難

昭和四十二年重点施策の一つである「白根中央保育園」の建設は、七月の下旬から工事に着手し、一月一日から開園する予定です。写真は完成間近の様子です。

収容能力百六十人

吉沢市長は、ことしの三月定例市議会で、昭和四十二年の予算編成にあたって、次の三点をその柱として予算の編成にあたって説明しました。第一には福祉関係、第二には道路関係、第三には教育関係と、その一つ、福祉関係のなかで最大の事業である「白根中央保育園」がこのほど母子健康センターの東側に建設されました。

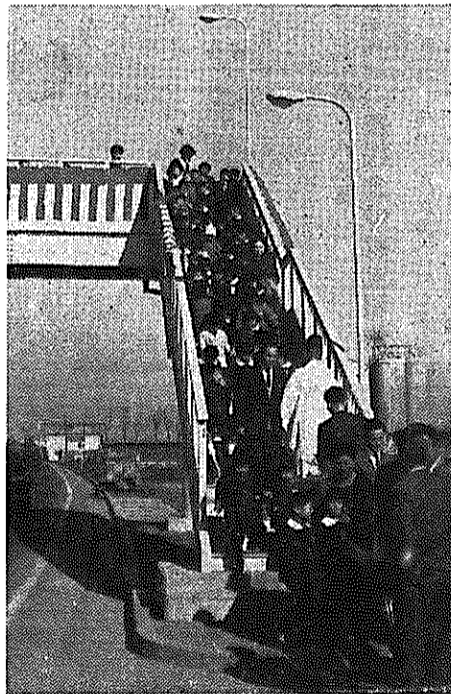


この保育園は、約百六十平方メートル（四十八坪）の敷地に、五百六十平方メートル（約百七十坪）の木造平家建てで建設されました。また、この保育園建設に要した建設費の総額は、千三百五十万円で、その財源内訳は、起債六百五十万円、国庫補助百五十万円、一般財源三百四十万五千円となっており、収容能力百六十人（定員八十人）の公認保育園として、一月一日から正式に開園する予定です。新年度の四月一日からはさらに定員の変更を申請して百六十人収容の名実とも白根市の中央保育園として発足することになっています。

本市の保育事情は、白根地区を除く各市区では、年々園児の数が減少しており、十数人しか入所希望者がない保育園も見られる一方、白根地区は依然として入所の競争率は高く、入所難が深刻化しています。現在白根地区には、白根、諏訪木、四ツ野の三つの保育園があるほか、町部から古川保育園へもかなりの園児がかよっています。これらの保育定員は約三百人であるにもかかわらず、毎年入所希望者数は五百五十人前後もあり、その競争率は約一・八倍にもなっています。このように白根地区の入所難を解消することはもちろんのこと、健全な人間育成による市の発展を最終的な目標としている本市の保育行政も、これではおぼろげたるものとみられており、新年度からは入所を必要とする幼児についての入所難は大いに緩和されることになると見られています。

白根小脇に陸橋

—安心して通学—



白根小脇に陸橋が完成し、十一月十七日渡橋式が現場で行なわれました。昭和三十九年に開通した国道八号線は、今や大きな役割を果しています。それにともない交通量も年々増加し、九月二十七日に行なわれた交通量調査によると、新脇方面から三条方面へ向かう自動車は、それぞれ五千台前後で合わせて約一万台の自動車は白根市内を通過しています。このように交通の激しい国道を横断して、毎日通学している白根小の生徒や、白根保育園の園児たちは、そのたびに危険にみまわれています。このような危険から子どもたちを守ろうと、市や父兄からの強い要望で、北陸地方建設局がこの建設に着手して、十一月十七日渡橋式が完成しました。

現在国道八号線を横断して学校があるのは、保育園に通っている子どもたちは、小中学校、保育園あわせると約四百三十人もおり、これからは危険もなく、安心して通える関係が喜ばれています。しかし、せっかくできた歩道橋も、まだまだ利用してない子どもたちがたくさん見受けられます。せっかく造った施設も宝の持ち腐れです。おおいに利用してください。

白根市外三ヶ村（月湯、味方、中之口）衛生処理組合は、伝染病院、火葬場について、ゴミ焼却場も建設して、一日五、六トンとみても十分に消化できる計算になります。新年度からは環境衛生処理はすべてここで行なわれ、白根広域行政地区の一大清掃センターとなることとされています。

排出されるゴミは一日二十二、三トンとみられており、そこに大口の事業所から出るゴミを一日五、六トンとみても十分に消化できる計算になります。新年度からは環境衛生処理はすべてここで行なわれ、白根広域行政地区の一大清掃センターとなることとされています。

指定統計第十号として、統計法に定められている「工業統計調査」が、ことし十二月三十一日現在で行なわれ、この調査は「製造業、加工業」に従事しているすべての事業所が調査の対象になり、調査結果は、単に通産省の行政資料とするばかりでなく、

年末から年初にかけて、郵便物や届け物の配達があふてきます。これらは大半がアルバイトの人たちによって配達されているようです。皆さんの自宅では表札がはつきり読めるでしょうか、配達員の人たちは表札だけがたよりです。表札は正確にはつきり読めるようにしておきましょう。

戸籍の届け出が改正の施行規則が一部改正され、出生、死亡、婚姻、離婚の各届け書の様式が改正され、おなじみの用紙に一月一日から新しい用紙に差し替わることになりました。

小包の郵送は、十二月十五日から年賀はがきの特別取り扱いが受け付けられますので、郵便局はたいへん混雑します。小包をスムーズに送るには「十二月十五日まで」にお出しください。包装は内容品を充分保護できるように、しっかりと封は「十」文字か「キ」文字にかけ、荷札は必ず二枚つけてください。

年賀はがきは、十二月十五日から受付はがき十五日から受付は、いよいよ師走（しわす）毎年十二月にはいよいよ郵便物がたいへん混雑します。そこで白根郵便局では少しでもこの混雑を緩和しようと、つきぎのような呼びかけを行なっています。皆さん協力ください。

室町時代の土器発掘



室町時代（今から約五百年前）のものと思われる、土器や井戸のあとが庄瀬地区で発掘されました。これは庄瀬第一部落の桜井彦太郎さん（五八）が昨年十月ころ、自分の畑を田んぼにするため、土を取っていたところみつかったもので、ツボ、スリパチ、カワラなどのかけらのほか、石器や古井戸のあとなどもみつかっています。このように白根市内から大量の土器が出てきたのははじめてのことです。白根の生いたちや、私たちの先祖がどのような生活をしてきたか、などを知るためには非常に参考になるものです。これからは皆さんの近所でもこのような考古学の資料となるものがあふてくることも考えられます。もしみつかったら、すぐ教育委員会事務局（電話の二二二番）へご連絡ください。